



▶ 昨年の成人式



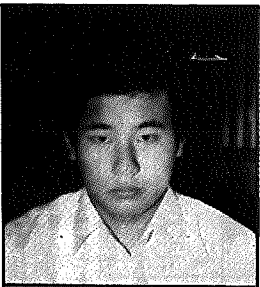
成人式は、八月十五日由に総合体育館で行われます。案内状はまだ受けていない方や、転入された方、備省されている方も出席できますので、教育委員会へお申し込み下さい。



一票の重さ  
菟川 良子  
(二十歳)

二十歳を迎えて、それを強く実感したことの一つに選挙権がありました。私の初めて投票した選挙は、衆参両院の同時選挙でした。この時には、選挙の立会人としても参加する機会を与えられました。今まで、中学・高校の学習の中で、民主主義の政治制度や選挙制度などを知ることで、国民の議会に対する不断の監視や抑制と、議会が国民の世論に即応していることが必要であることを学びました。そして国民の意思を表明するもつとも重要な手段の一つが選挙であり、一人一人の一票がとても重要なものであると思っていました。実際に、自分が選挙権を持つ年齢となった、どの政党の誰に投票するかを考えてみると、その難かしいこと難かしいこと。

に決めて投票所にいられたうでしたが、中には、投票所に来てから誰にしようかといった光景もみられました。慎重に考えて投じた一票も、その場で決めた一票も票としては同じ一票です。そして自分の投じた票も、難かしいと思うばかりで、



真の優しさを  
もつて  
清水 洋一  
(川原)

ぼくにとって二十歳になって「早いものだなあ。」と思う一方で、「やっと二十歳か。」と思ったり、非常に矛盾した印象を持った。「早いなあ。」と思うのは、自分が今までにたいしたこととしてきていないのに、といったような後悔、そしてまだやり残したことが、という十代への惜別か

結局の所、妥協で投じたものではなかったのかという気がして、反省させられました。選挙とは、自ら投じる一票の重さをしっかりと自覚し、最善と思う人や最良と思う政党を選ぶものだと思っていました。しかし現実の選挙を目の当たりにして理想とあまりにも違う幾つかの行動作を見たことから、現実と理想のギャップを痛切に感じました。そしてこの現実を背を向けるかあるいは、迎合するのか、それとも少しでも本質的なものに近づける様努力するのか……。それが私達若者に与えられた社会人としての課題だと思います。

「そして「やっと二十歳か。」というのは、これで一人の人間として一応、認めてもらえたという安堵から、そしてこれから開けてくるであろう人生への期待感からだと思ふ。さてぼくには、理想の男性像というものがあり、この理想の男性像とは、他の人に流されることのない信念を持って行動し何事に対してでも、真のやさしさを持つて接することのできる人であり、このような男に少しでも近づけたらと思つて、ばくらの生涯の抱負ともいえるであろう。

二十歳の抱負は、この理想像に近づくために必要なもので、第一に自分の行った行動は、自分でその責任を負うということである。当然二十歳とは、そういう行動が、だんだんと少しづつできるようななつてくる年代である、自分でも自覚しているし、また第三者のおとなたちも要求してくると思う。特にこれからは、責任ある行動にこそが、外面だけでなく、内面的にも成人として、少しでも早く認められるようになりたいと思ふ。第二に自己主張をするということである。つまり、一人の人間として、自分の考えをはっきりと表示するということである。さらに、最終的には、自分独自のイメージというが世界を造りあげたい。第三に自分の道をみいだすことである。これは、ぼくが今、大学三年であるから特にこう考えるのかもしれないが、これまでの二十年間の経験、自分の考え方を十分に考えに入れ、自分にもつともあつた道を選びたいと思ふ。最後に、これを跳んだおとなの方々がきれいごとばかりならべているかと思ふけれども、自分たち二十歳のころをもう一度考えみて下さい。

# 第四回臨時議会

七月二十一日(火)第四回臨時議会が開かれました。要旨は次の通り

- 一、農業委員の推せん
  - 議会推せん農業委員に次の二氏が委員に
    - 大矢誠策(板井三)
    - 保田定次郎(黒鳥四)
- 一、大野都市下水路吐口施設の請負工事変更契約の締結
- 国道8号線下を横断する下水路工事で、道路の一部に陥没を生じたため、泥水加圧推進から手堀推進に工法を変更。従って請負工事金額も次のように変更。
  - 変更前 一億三千九百八十八万円
  - 変更後 二億一千八百八十三万円
- 差引増 七千二百三万円。



昭和五十二年八月一日、現町長の補佐役として助役に就任。この間、行財政に卓越した手腕を発揮し、数々の輝かしい業績を残され、このたび、七月三十一日任期満了

## 苦勞さまでした 石黒助役退任



により退任されました。

氏は、昭和二十三年四月一日役場に奉職、以来三十三年と四か月にわたり、産業の振興に、福祉の向上に、環境の整備にと尽力してこられ、昭和二十九年、勤業課の主任をスタートし、三十年経済課長、三十七年税務課長、四十八年総務課長を経て、現町政発足後、長年の行政手腕をかわれ助役に。さらに氏は、町政の根幹である「健康で文化的な活力のある明るい豊かな黒埼町」建設のため日夜努力を惜しまず、変ぼう著しい町の発展に多くの功績をのこされ、長い公務員生活に終止符を打たれました。

## 農業委員会選挙

### 無競争で

### 二十名が当選

七月十七日執行予定の農業委員会委員の選挙は、定数二十名に、対し、同数の立候補しがなく、無競争で次の方々が当選。今後三年間にわたり、農家のみなさんの代弁者として活躍することになります。(届出順)

- 若林 茂 (49) 山田下
- 高橋喜一 (51) 金巻
- 石橋又吉 (46) 立仏
- 田辺 健 (46) 板井二
- 駒沢正衛 (59) 寺地
- 鷲尾壽夫 (47) 黒鳥五
- 片岡 斉 (46) 島原本村
- 白井一鶴 (50) 小平方
- 茨木昭一 (45) 板井一
- 小柳辰一 (42) 木場下組
- 大谷 謙 (47) 木場八割
- 久保田辰治 (52) 板井三
- 山本三三司 (43) 板井四
- 戸枝勝蔵 (56) 木場上組
- 保田政雄 (54) 黒鳥一
- 一筋武夫 (49) 木場下組
- 那須野惣八 (49) 黒鳥三
- 笠原 賢 (44) 木場八割
- 五十嵐郁也 (44) 北場
- 丸山基代司 (50) 木場新田